



# J A雲南の肥育センターを 2カ所に縮小する問題対応は

村尾明利 議員

**町長** 牛がいなくなったということが  
ないような取り組みを進める



**問** 今春、JA雲南の和牛肥育事業は、経営状況が悪化し抜本的な経営改善策が急がれ、行政支援が不可欠との情報が流れる中、5月25日付、山陰中央新報に「和牛肥育大幅縮小を検討、拠点センター6カ所を2カ所に」との報道があった。その後、JA雲南理事会で約1千200頭の肥育頭数を約500頭に縮小する方針を決定、奥出雲町内2カ所の内、横田肥育センターは向こう2年間の内に廃止する方向にあると聞く。肥育センターは、本町の農業施策上極めて重要で、JA方針は本町にとって



▲ 廃止の危機？ 横田肥育センター

唐突感が否めないところである。本町への伝達の経緯は。

**答** 糸原農業振興課長  
本年1月13日に1市2

町とJAで構成する雲南農業振興協議会幹事会で初めて肥育事業の問題について話があり、本町には4月27日に組合長以下来庁され、規模縮小方針を口頭で受けました。5月24日には、協議会の臨時総会を開催し、あらためてJA雲南の説明を受けました。この臨時総会の確認事項として、規模の縮小は奥出雲和牛のブランド化、雲南地域のみならず、しまね和牛全体の振興に大きな影響をおよぼすものであることから、県を加えて、協議会で肉用牛産地の維持拡大

に向けて対策を検討していかうと確認されたところ。です。

**問** 子牛販売農家にとつては、雲南圏域での地域内一貫経営の一役を担うとの誇りと共に安定的な価格維持機能による経営の安定化で生産意欲を保っていたが、これによる意欲喪失は大きく、今後の畜産振興が懸念される。

**答** 特に、繁殖農家の皆さんに与える影響は大変大きいものがあると思っ  
ています。この問題は、JA雲南だけで議論するような話でなく、しまねの子牛は、しまねで育て、しまね和牛のブランド化を図ろうと県が旗を振った経緯があり、まず県の対応、支援策あるいは指導はどうか、そういうふうなものを持ったうえで我々は議論をしていこうとしています。

応が円滑にできるのか。  
**答** 牛と農業の循環関係が何としても維持できる  
よう、いろんなことを検討していく必要があると  
思っています。肥育センターをどう  
有効活用していくか、関係の皆さん方と協議しながら、牛がいなくなった  
ということがないような  
取り組みをぜひしてい  
きたい。

**問** 本町は、島根和牛の本場、仁多牛の発祥地として県下の和牛飼育農家を牽引し島根和牛のブランドを確立して来た。肥育センターの縮小方針は遺憾だ。24年度開催の長崎県での全国和牛能力共進会を目前にし、和牛飼育農家、生産諸団体の意欲発場の畜産振興方針は、  
**答** 全共への取り組みは極めて大事でこれに好成績をとることが必須の要件だろうと思えます。補助事業も合わせ畜産関係で毎年千数百万円の事業に取り組んでいます。農家の皆さんと議論をする場を増やし、意欲を持つて牛飼いをやっていく地域づくりを進めていきたいと思います。

**問** 和牛飼育に係る副産物の堆肥は仁多米ブランドに欠かせないが、開発パイロット畑地への地元企業の参入等で堆肥による土壌改良が進捗し、昨今は需要が追い付かず、春先には供給不足気味と聞く。今後、これらの対